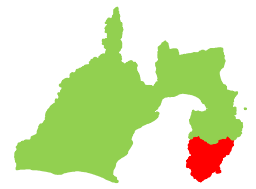


4 地域ごとの目指す姿

(1) 賀茂農林事務所



ア 背景と目指す姿

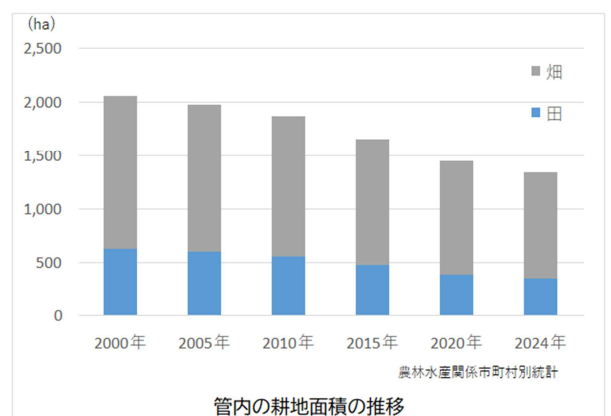
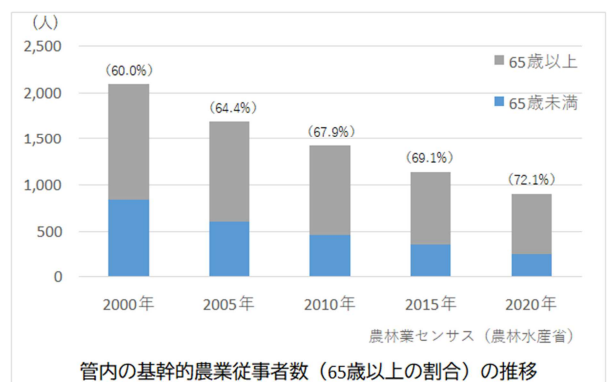
- ・伊豆半島南部に位置する賀茂地域では、温暖な気候や独特の地形を生かし、いちごやカーネーション、キヌサヤエンドウなどの園芸作物、ハウスみかんやニューサマーオレンジなどの柑橘類のほか、地域の特産物である水わさび、サクラバ等が栽培されています。

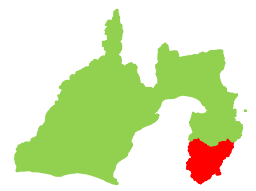
<地域特性と環境変化への対応>

- ・農地が狭小で傾斜地が多いなど、規模拡大や効率的な農業生産が難しい賀茂地域特有の条件不利な立地であることから、これまでも施設園芸などの高収益作物の産地化が進められてきましたが、今後の農業経営の継続や産地の維持に向けて、土地生産性と労働生産性の更なる向上を図り、収益性の高い農業経営を実現する必要があります。栽培管理の高度化や作業の効率化を実現する新たな技術の導入を促進するとともに、基盤整備事業等により効率的な農業生産が実現可能な優良農地を整備し、担い手への集積を進めます。
- ・近年の気候変動に伴う夏期の高温により、農産物の収量や品質の低下などの影響が生じているため、高温対策技術の導入等を支援し、環境変化に適応した持続可能な栽培体系への転換を図ります。
- ・野生鳥獣による農作物被害は依然として地域の営農に大きな影響を与えており、なお一層の被害対策が必要なため、地域が一体となった取組を推進します。

<農業従事者の減少への対応>

- ・過疎化の進行に伴い農業従事者の減少と高齢化が進んでいるため、産地の維持に向けて、担い手の確保・育成の取組を強化する必要があります。県内外からの新規就農者の確保や農業参入法人の誘致等を推進するとともに、意欲ある農業者の経営発展を支援し、次代を担う経営感覚に優れた担い手を育成します。
- ・農業従事者の減少に伴い耕地面積が減少し、荒廃の程度が進んだ農地が増加しているため、担い手への農地の集積・集約化を強化するとともに、農地の維持・活用に向けた取組を進める必要があります。小規模就農（半農半X）や、多様で幅広い人材を活用して小規模な農地を維持・活用する取組を推進し、遊休農地や荒廃農地の発生抑制を図るとともに、農産物直売所等の活性化や地域特産物の生産振興につなげます。





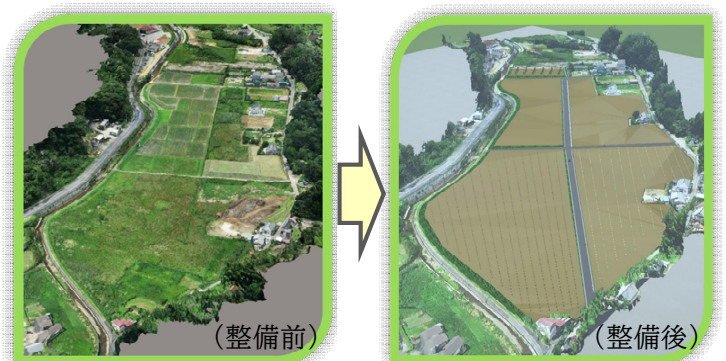
イ 行動指針（目指す姿の達成に向けて実施する事項）

- ・ 賀茂地域に適した環境制御・省力化技術の効果検証と導入支援
- ・ 暑熱対策資材・技術、高温耐性品種等の導入促進
- ・ 野生鳥獣による農作物被害防止対策の推進
- ・ 伊豆縦貫自動車道建設発生土を活用した農地基盤整備事業による生産性の高い優良農地の創出と担い手への集積・集約化の推進
- ・ 農業者の規模拡大や収益力向上に向けた支援
- ・ 新規就農者・新規参入法人への支援の強化
- ・ 多様で幅広い人材による小規模農地の活用を支援

ウ 行動内容（推進項目）

○ 生産性向上による持続可能な賀茂農業の構築

- ・ 新技術等の導入による生産性向上
スマート農業技術等の活用による生産性向上
気候変動対策技術の効果実証と普及
鳥獣被害対策による生産性の維持
- ・ 基盤整備による生産性向上
基盤整備実施地区の生産効率化を図る営農計画に応じた整備



竹麻地区（南伊豆町）基盤整備

○ 持続可能な賀茂農業に向けた担い手の確保・育成

- ・ 次代を担う担い手の確保・育成による産地の維持
意欲ある農業者の経営発展支援と新規就農者の確保・育成
担い手への農地集積・集約化と農業法人の誘致・参入支援
多様な人材の活用による担い手への労働力確保支援
- ・ 基盤整備による担い手への集積・集約化支援
計画地区の集積計画策定・合意形成
実施地区の中間管理権調整・設定
- ・ 地域の資源を核とした農地の維持・活用
直売所等への出荷を核とした小規模農地の維持・活用
地域の特産物等を核とした農地の維持・活用



直売所研修農場での栽培研修